街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

●荏原第一地域新聞●

第179号
平成30年(2018)2月発行
発行・事務局
○荏原第一地域センター○
小山3-22-3（〒142-0062）
TEL 3786-2000
FAX 3786-5385

連合町会 新春初顔合わせ

荏原第一地区区政協力委員会並びに荏原第一連合町会新春初顔合わせが、1月12日(金)に、武蔵小山商店街の中華井門で行われました。

区長や顧問をはじめ、各町会からも多くの方々にご参加いただき、総勢82名。

当日は、小山5丁目町会・石井規之会長の司会のもと新年会が始まりました。

はじめに、荏原第一連合町会を代表して、荏原4丁目町会・連合町会の三瓶恭生会長が挨拶をしました。三瓶会長は2年後のオリンピック開催や武蔵小山駅周辺の再開発事業について触れ、今後も地域の協力を得て、まちの発展につなげていきたいという話をされました。

つづいて、来賓としてお越しいただいた濱野健区長は、「いつも皆様には、品川区政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。より良い区政運営には、皆様からの情報が何よりです。今後も地域ならではの情報をぜひお寄せください」と挨拶されました。

ご出席いただいた皆様と和やかな時間を過ごし、今年の初顔合わせも無事にお開きとなりました。今年も荏原第一地区のさらなる発展と飛躍、そして皆様の健康を祈念します。新たな一年をどうぞよろしくお願いいたします。（事務局）

三瓶会長の挨拶の様子

小山台保育園で初釜

小山台保育園で、1月19日（金）に初釜が行われました。

初釜とは、新しい年を迎えて最初に行うお茶会のことで、日本の伝統文化に親しむ機会として、3歳から5歳児を対象に毎年実施しています。

お茶を点てるのは、学生時代に茶道部に所属していた保育士の先生です。

まず、子どもたちはご挨拶をして正座をし、お菓子をいただきました。この日のために用意されたお菓子は、手づくりのきな粉ラスク。子どもたちは、嬉しそうな満面の笑みで味わっていました。

つづいて、先生のお点前が始まりました。初めて見る茶道具に子どもたちも興味深々の様子。先生が茶筅で素早く点てると、柔らかく泡立ったお抹茶ができあがりました。指導していただいた作法で一気に飲み干すと、子どもたちからは「お茶はちょっと苦かった」、「お菓子も食べられて楽しかった。また明日もやりたい！」などといった声が聞えました。

同保育園園長・栗原睦美先生は、「当園では、10年以上前から初釜を行っています。小学校にあがると茶道部がある学校もあります。保育園での経験や興味が小学校にもつながっていくと思うので、これからも長く続けていきたいです」と話していました。（事務局）

お茶を味わう子どもたち

花めぐり

ボケ

花の名前をほとんど知らなかった頃、初めてこの花を見た時、「これは梅？」とたずねたら「ボケ」と言われ、「惚け」とからかわれたのかと思い、それ以来忘れられない花になりました。

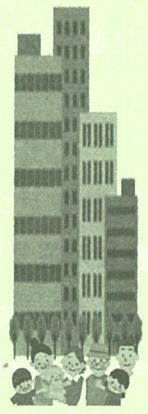
ボケは中国原産で、平安時代に渡来したと言われています。桜や梅と同じバラ科に属し、枝には細かい棘があります。開花は11月～4月頃で、ふっくらとした可愛らしい5弁の花が咲きます。また、秋には黄色の実がなります。花の色は「緋ボケ」「白ボケ」「更沙ボケ」など多彩です。

ボケは「木瓜」と書きますが、それは実らせる果実が瓜に似ており、木に実る瓜に由来したと言われています。当初は「モッケ」と読んでいたのが、次第に変化して「ボケ」となったのではとも言われています。ちなみに花言葉は、「熱情」「魅惑的な恋」などです。

林試の森入り口付近に咲いていますので、探してみてください。（小山台2丁目町会・木村 美智代）

◎シリーズ◎
駅前再開発

⑪子どもたちが住みたい武蔵小山
～創業95年「河邉商店」～



▼「河邉商店」の歴史

小山3丁目で昆布やわかめ、ひじきなど、主に海藻類の製造・加工・卸まで一貫して行う河邊商店。その歴史は、慶応元年にさかのぼります。今では200種類以上の海藻製品を作るまでに成長し、海藻の魅力を国内外に発信しています。4代目・河邉克巳社長に幼い頃の商店街の思い出や、再開発について伺いました。

▼4代目の武蔵小山の思い出

河邉社長に、子どもの頃の商店街について尋ねると、「あの頃は季節感があった。匂いが濃かった」と、思い出を話してくださいました。特に思い出すのが、冬場の銭湯だそうです。当時、商店街周辺にはたくさんの銭湯がありました。湯船につかって、体の芯まであたたまった帰り道。手拭いを振り回すと「家にたどりつくまでの間にカチンコチンに凍ってしまうのが楽しかった」と、懐かしい話をしてくださいました。

▼再開発への思いは・・・

河邉社長は、昔ながらの小売店が減少し、地域ならではの特徴が薄れていくのは寂しいとしながらも、「その時代、その時代で生まれてくるものもある」と、変化する時代の流れを客観的にとらえています。その上で、これからの『まち』を築き上げるのは子どもたちで、「子どもたちの住みたいまちや、こんなまちがあったらいいな、という声を聞くことも大切だと思う」と話していました。

今回の河邉社長の話で一番印象的だったのは、「今を拾っていかないと未来はできない」という一言でした。急激に変化する時代だからこそ、これからを生きる世代の意見や価値観から何が今求められているのか、その真意をつかむことが、再開発にも重要なのではと感じたインタビューでした。（事務局）

タッチパネルで区内情報を
デジタルサイネージ設置

荏原第一地域センターの2階ロビーに「デジタルサイネージ」が設置されました。デジタルサイネージは大型のタッチパネル式のモニターで、品川区からのお知らせやイベント情報、地域の情報をはじめ、天気予報やお役立ち情報、周辺マップなど、様々な情報をお届けします。地震などの災害時には、テレビとしての活用も可能であり、4か国語に対応しています。地域センターにお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください！（事務局）

街角ウォッチング

～山本将棋教室～

後地通りを五反田方面へ進んでいくと、旧中原街道と交差する。その少し手前を左へ曲がると、その一角に落ち着いた雰囲気の建物がある。目を凝らすとそこには「山本将棋教室」と書かれている。

羽生善治竜王・藤井聡太五段のこともあって、現在は空前の将棋ブームだ。そんな中、昨年12月18日（月）、山本将棋教室の主宰で指導棋士である山本大輔さんを訪問した。

山本さんは、昭和57年のお生まれである。趣味は、山登り、カラオケ、卓球、水泳と多彩である。将棋は、幼稚園のころから始められたそうだ。やはり『梅檀は双葉より芳し』であろうか。わりと背が高く、ハキハキと物をおっしゃる。

山本さんに将棋の面白さを尋ねると、いろいろあると話す。作戦を練って、相手の上を行って展開する、戦略的なゲームだ。作戦通りに行ったときはいいが、上手くいかない時もある。駆け引きがあり、相手の読みが分かったときは面白い。

戦法は、矢倉囲い、横歩取りに代表される「居飛車」、中飛車、四間飛車、高美濃、穴熊といった「振り飛車」の2つに大別され、攻め込んでいく攻撃型と隙を見て狙うカウンター型。

山本教室は2011年7月1日からマンツーマンで教えている。現在教室の会員数は186名ほど、そのほとんどが小学生などの若年層である。横浜から足を運ぶ人もいるそうだ。

〔山本将棋教室：品川区荏原1－12－6、入会金：3300円、永久教材費：3300円〕（荏原1丁目町会・吉田 健治）

◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は３月２０日（火）発行の予定です。

「まちかど」は、品川区役所ホームページからもご覧いただけます。 http://www.city.shinagawa/tokyo.jp/

古紙を配合した紙を利用しています。